

2025 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 議事録（要約）

開催日時：2025 年 6 月 25 日（水） 15：00～16：30

開催場所：専門学校 YIC リハビリテーション大学校 会議室

出席者：外部委員（各 1 名）

- ・ 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 保護者
- ・ 有識者 理学療法士
- ・ 有識者 作業療法士
- ・ 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 理学療法学科卒業生
- ・ 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 作業療法学科卒業生

出席者：学内（8 名）

- ・ 校長、副校長、事務長、校務課長、教務係長、作業療法学科長、理学療法学科長、議事録担当者

1. 校長挨拶

多忙な中での参加に対する感謝が述べられ、昨年度から委員会のメンバーが大きく変わり、平均年齢も下がったことへの言及があった。新しいメンバーからの新しい観点での学校教育や学校運営に関する様々な意見を期待する旨が伝えられた。

2. 学校関係者評価委員会自己紹介

新しい委員も多数参加しており、自己紹介が行われた。学校の教育に対する第三者の視点での客観的な確認、アドバイス、素朴な疑問など、活発な意見や質問を期待する旨が伝えられた。

3. 定足数確認、委員長・副委員長の選出

全委員が出席し、定足数を満たしているため、委員会が成立したことが報告された。委員長に卒業生理学療法士、副委員長に卒業生作業療法士を推薦。全員の賛同により承認された。委員長からは、学校がより良くなるように活発な意見を期待する旨が述べられた。

4. 議事

（1）2025 年度報告

① 2024 年度自己点検評価結果の検証・・・資料 2024 年度自己点検・評価票

教務担当者より、自己点検評価結果について報告が行われた。

・ 自己点検評価の目的：

学校が評価基準を定め、定期的に現状を点検・評価し、機能の達成度を確認し、改善点を明確にして教育目標への到達を目指す取り組みである。本校では、一般社団法人全国専門学校教育研究会

(全専研) の評価基準を参考に実施されている。

・評価点とカテゴリーについて

評価は「適切」＝4、「ほぼ適切」＝3、「やや不適切」＝2、「不適切」＝1の4段階で行われ、項目はカテゴリーA、B、S、Q、Jの5つに分類される。特にカテゴリーAは、全国専修学校として適切化が必須とされる項目であり、カテゴリーBは職業実践専門課程として適切化が必須とされる項目である。本校の場合、AとBはどちらも適切化が必須である。また、S、Q、Jは第3者評価を実施する認証機関が適切化を推奨している項目になる。評価項目は全11項目で構成されている。

・適切に至らなかった項目（2024年度時点）

「2. 学校運営」について

- ・2-4-5 理事会・評議員会の議事録公開について … 評価1

開示請求があれば公開する実質的な運用はされているが、規定上の書類に記載がないため

- ・2-7-1 情報システム化等による業務効率化 … 評価3

図られているが改善の余地があるため

「3. 教育活動」について

- ・3-2-3：各科目の1コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか…評価2
- ・3-2-22：質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか…評価2
- ※上記2つに関しては2025年度現在改善に向けて計画的に作業を進めている。
- ・3-2-91：地域の特性を生かした教育を行っているか …評価1。

「4. 学修成果・教育成果」について

- ・4-3-1：資格取得率の向上が図られているか …評価3

「5. 学生支援」について

- ・5-5-1：退学率の低減が図られているか …評価2

「6. 教育環境」について

- ・6-1-4：図書館サービスは十分に機能しているか …評価3
- ・6-3-22：学校独自で教職員・学生に対し防災研修教育を行っているか …評価3
- ・6-3-23：県シェイクアウトや各市・町が行う防災訓練等に参加しているか …評価3

<質疑応答・意見交換>

- 1) 2-7-1について改善の余地があるとのことであるが、どのようなものがあるか

教職員の業務効率化と学生の教育活動へのICT活用が進められている。例えばペーパーレス化、クラウドサービス利用、議事録・報告書類をウェブ上で作成、回覧物のデジタル化がある。また、

学生に関しては e-ラーニングシステムでの授業資料共有により、学生はカラーで資料を見ることもできるようになっている。最近では AI の活用も進めている。

2) シラバス、コマシラバスとは何か

シラバスとは科目の目標、構成、内容、成績評価の方法などを紙面 1 枚でまとめたものである。

1 コマのシラバス（コマシラバス）とは、1 つの科目が 15 回で構成されており、その 1 回 90 分の授業の運営に関して、より精密にまとめたものである。この作成に関しては現在進めている最中である。

3) 学校運営 2-4-5 に関する補足

理事会、評議員会というのはこの学校だけではなく、YIC 山口の 7 校の理事会である。理事会では公開する事が了承されており、開示請求があれば公開するという形をとっている。公開と言っても色々な形があり、ネット上に公開しているわけではない。評価を 4 にできない理由として、規定上の書類に文書として記載がないため「1」と評価されている。今後改善するように進めていく。

4) 3-2-22 に関して昨年度も「2」だったが、定期的な授業の観察を行っているか

どの頻度で教員が授業見学ができているか、授業見学レポートという形で記録を残すようにシステムを構築した。見学がどの程度行われているか確認を進めている。現在特に規定はなく、いつでも見学できるようになっているが、今後は定期的に各授業が見学できるようにしていきたい。

（委員より）授業見学は 90 分ずっとではなく、10～15 分でも観察できるように取り組めたらよいのではないか、というご意見をいただく。

5) 3-2-91 に関して、現在も地域貢献に関する様々な授業がなされているが評価が低いため、これ自体何が求められているのか

地域貢献事業への参画は授業の中でも行っており、学生もしっかり関わっているという意味では評価を上げて良いかと思われるが、地域に関する教育では高齢者以外にも様々な内容があり、そこまでは洗い出せていない。また、例にあるような交通安全教育といったような、さらに踏み込んだ地域貢献の取り組みが行えていないため、改善の余地があり、厳しめに判定している。

6) 5-5-1 退学者の低減について、退学率が 3% というのはどのような指標か

YIC グループの目標である。全国の専門学校の研究会でも言われている数字でもある。

7) 第三者評価のようなもので、自己評価と照らし合わせるような機会はあるのか

5 年に 1 度、リハビリテーション教育評価機構という第三者評価機構があり、そちらの認定は受けている。

8) 5-2-8 に関して、県内への就職を押しているのかたまたまそうになっているのか

基本的には県内の就職希望が多い。実習でもお世話になっており、県内就職を促しはしている。しかし県内施設様の求人だけでは全生徒の希望に叶わないこともある。例えば小児分野やスポーツ

分野に関わりたい学生もいるが、県内ではそれらの求人が少ないこともあるため、県内にない求人
を求めて県外に出ることもある。一部の学生は都会への就職希望の学生もいる。

9) 3-2-91 に関して、他の学校はどういったことをされているか
現時点では把握していない。

10) 中途退学の原因はどういったものがあるか

理学療法学科では、1, 2 年生は進路に対するモチベーションの低さがある。3 年生では急に退学
することはほとんどないが昨年度はあった。また、休学者の進路変更もあった。作業療法学科でも
同じような傾向である。昨年度は、6 7 名で6名の退学者が出ているがほとんどが1年生である。
勉強内容が難しいことや、仕事内容も思い描いていたものとは違ったなどが主な原因。4 年生では
1 人体調を崩し退学となった。

(委員より)

定員充足が課題であり、受動的な気持ちで入学した学生への対応が必要と思われる。入学後に戸惑
いが多いと思われる1、2 年生に対して、仕事の魅力等伝えていき退学を止められれば、その後の
退学率軽減に繋がられるのではないかと、ご意見をいただく。

11) 本校の学習支援の取り組みに関する補足

入学が確定した時点で、入学前教育ということで本校独自の課題を取り組んでもらっている。それ
とは別に、進研アド(ベネッセコーポレーション)による入学前プログラムにて、高校時に学ぶ範
囲の復習と、入学後に学ぶ解剖学についての初歩的な内容について学習してもらっている。また、
入学直後に実力試験を実施し、その試験結果から一部の学生に対し、放課後の45 分間、その日の
授業の振り返りを中心に学習支援をしている。入学前から期末試験までの学習支援の流れを作っ
てはいるが、それでも成績が伴わず、進路変更に至ってしまう学生がいるのは事実である。

(委員より)

入学前からの学習支援の取り組みにより、入学後もスムーズになるのではないかと。今後も継
続していただきたい、ご意見をいただく。

②2024 年度学科報告・資料 2024 年度学科報告資料

両学科長より、資料に沿って 2024 年度の各学科の状況が報告された。

1, 作業療法学科 補足説明

- ・昨年度新卒 12 名のうち 2 名が国家試験不合格となった
- ・卒業者に占める就職者の割合が 100%となっているが、国家試験不合格者も助手という形で内定先
に就職したため、このような数値となっている

2, 理学療法学科 補足説明

- ・理学療法学科の国家試験合格率は全国平均より高くなっている
- ・卒業者の就職率では、国家試験不合格者 1 名は就職しておらず 96.2%となっている

<質疑応答・意見交換>

1) 作業療法学科は母数が少ないので、1人に占める割合が大きい。今回国家試験不合格者の2名はもともと厳しい成績だったのか。

A: 3年生の実習時からモチベーションの低下がみられ、元々学力でかなり厳しく支援対象の学生であった。支援はしていたが、結果的に不合格となってしまった。

(委員より) 国家試験合格率100%を目指すなら、成績の低い学生を受けさせないという学校も多い中、YICでは受けさせる権利を与えているのは個人的に良いことと思う。

2) 理学療法学科では、国家試験合格率が良かったが、今回の学生に関してや教員が取り組んだことなどあれば教えてほしい。

A: 入学時からクラス全体が勉強するクラスだった。不合格となった学生は3年次4年次で留年したが、努力をしていた学生ではあり、卒業することはできた。国家試験では合格点に至らなかったが、そういった学生に対しても合格できるよう教員もサポートする必要がある。

3) 国家試験不合格者が2名助手として就職できた点に関して、その経緯はどのようなものか。

A: 精神科系の病院であり、人手が足りておらず、少しでも知識や経験があるスタッフが欲しいと言っていた。このようなことはそこまで多いわけではない。

4) 国家試験不合格者の卒業後のフォロー体制について教えてほしい

A: フォローの期間については定めておらず、本人が受験したい意志があればその段取りを組むことは可能。受験対策に関しては、不合格後1～2年以内であれば、学校から国家試験受験対策プログラムの案内をする。これは学習支援と受験に関する事務的な手続きを一緒に行うものである。高校生の保護者からも、国家試験が不合格だった場合のフォロー体制に関して質問が多くあり、このような説明している。

(委員より) このようなフォローがあると、より高校生から選ばれるのではないか。

②について全員一致で承認した。

③ 2024年度重点項目への取り組みの検証・資料 2024年度重点項目への取り組み

重点項目(1) 定員充足

2024年度は定員確保に最も苦労した年であり、理学療法科は定員40名に対し最終入学人数23名、作業療法学科は定員30名に対し9名という、開校以来最も少ない人数となった。高校生の企業への就職志向や大学進学志向の強まり、全国的な医療系志望者の減少が要因とされている。オープンキャンパスへの来校者数が減少したことが課題だが、来校者の出願につながる「歩留まり率」は5割と高い傾向にある。

重点項目(2) 国家試験合格率100%達成

昨年度も未達成であった。対策として、学習アプリや動画コンテンツの活用により、学生が隙間時間に学習できる環境を整えたり、過去問への早期取り組み、個別対応などを強化している。しかし、体

調不良や精神的な不調により来校しない学生もあり、そのような学生への早期のアプローチの難しさも課題である。

重点項目（３）データ管理に関するマニュアル作成

ペーパーレス化や業務効率化のため、学生証アプリ「マイディー」を活用し、学生・保護者への連絡を郵便からデジタルへ移行した（保護者の登録率は 89%に改善）。サーバーデータの整理、ポータルサイトの活用、AI 活用に関する勉強会なども実施し、業務効率化を図っている。

<質疑応答・意見交換>

1) 歩留まり率が 5 割であるが、定員充足がかなり厳しかった理由としては、オープンキャンパスに来た高校生が少なかったということか。

A:その通りである。18 歳人口の減少を受け、広報の強化が課題である。

（委員より）18 歳人口の減少という社会背景があり、今後も少子化傾向が続く見込みである。医療職への進学が減少している背景には、保護者層の職業に対する認識不足（工場勤務の方が良いといった思考）もあることが示唆され、今後は高校生だけでなく保護者層へのアプローチも検討されている。具体的には、保護者の勤務時間に配慮し、出向くまたは病院に来ていただくなどで職業理解促進の取り組みを検討している、とのご意見をいただき、高校生以下の年代だけではなく幅広い年代に向けた職種認知度向上や魅力発信の必要性が強調された。

③について、全員一致で承認した。

（２）2025 年度の計画

2025 年度重点項目について……資料 2025 年度重点項目への取り組み

重点項目（１）定員充足

2024 年度に引き続き重点項目とされている。具体的な計画として、個別性を重視した対応、SNS の計画的な配信、学校認知度の向上、高校との連携強化、学生募集に関する教職員向け研修会の実施が挙げられた。

重点項目（２）国家試験合格率 100%達成

昨年度と同様に重点項目とされており、取り組み内容はほぼ同じとなる。早期のアプローチ、個別・グループ学習の強化を引き続き実施する方針である。

重点項目（３）教育の質向上

新たな重点項目として追加され、①～⑤を組み組み計画として挙げている。

重点項目（４）国際交流

コロナ禍で途絶えていたが再開され、2024 年 3 月には釜山への訪問が実施された。

2025 年 7 月末から 8 月初めにかけて、釜山カトリック大学の学生と教員が来校する計画が進行中である。もう一つの韓国姉妹校との交流についても現在調整中である。継続的な国際交流は、本校の特徴であり、国際感覚を養う上で重要であると認識されている。

<質疑応答・意見交換>

1) 県内出身者でも大学出身のセラピストが増えている中で、大学との差別化としてどのような取り組みが行われているか。

A:高校は大学進学率を上げたいというところで、生徒へ大学を進める現状がある。大学との差別化については、少人数制による個別サポート、国家試験合格率の高さ、学費の安さ、地域に根差した教育、手厚い就職支援などが強みとして挙げられる。

現在学校の認知度を上げる取り組みとして、出張オープンキャンパスをしている。また、リハビリ職自体の認知度を上げる取り組みもしていく必要がある。

2) 作業療法学科の定員が 30 名となっているが、これは人口に合わせて変えているのか。

A:作業療法学科の定員は、奨学金制度の施設要件等（定員充足率）も考慮し一時 20 名に減らしていたが、それ以上の出願があり現在は 30 名に戻されている。元々 40 名定員で学校設備を整えている為、広さや設備に関しては問題ない。

3) オープンキャンパス参加者が質問しやすい環境を整えることに関して、質問票のようなものがあると聞いているが、そのようなものがあると歩留まり率が上がるのではないか。

A:高校生からの質問はなかなか出てこないため、そういった物を作成している。学生ボランティアが非常に良い対応してくれるので歩留まり率が上がっており、引き続きご協力いただきたい。

5. 報告等

(1) 学校の年間予定について (2) 学校パンフレット・募集要項について

・事前に送付された書類をご確認ください。

・広報に関して、養成校単体では限界があるため、現場の先生方や保護者様とも連携を取りながら、よりよい企画を考案し、協力し合いながら進めていきたい旨が伝えられる。

(3) その他

特になし

第 2 回目は、2026 年 1 月 28 日（水）15 時～

以上